

# 平成24年度大気の測定結果

## 1 大気汚染常時監視

### (1) 二酸化硫黄

二酸化硫黄に係る常時監視測定局数は、一般局が15局、自排局が3局でした。

常時監視測定における年平均値は、一般局が0.002ppm、自排局が0.002ppmであり、図1のとおり近年ほぼ横ばい傾向にあります。

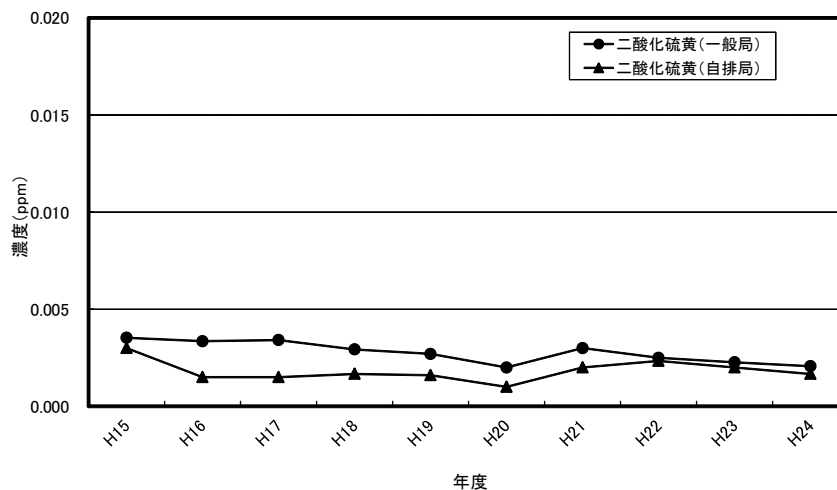


図1 二酸化硫黄濃度の年平均値の経年変化

### (2) 二酸化窒素

二酸化窒素に係る常時監視測定局数は、一般局が14局、自排局が5局でした。

常時監視測定における年平均値は、一般局が0.004ppm、自排局が0.009ppmであり、図2のとおり近年ほぼ横ばい傾向にあります。

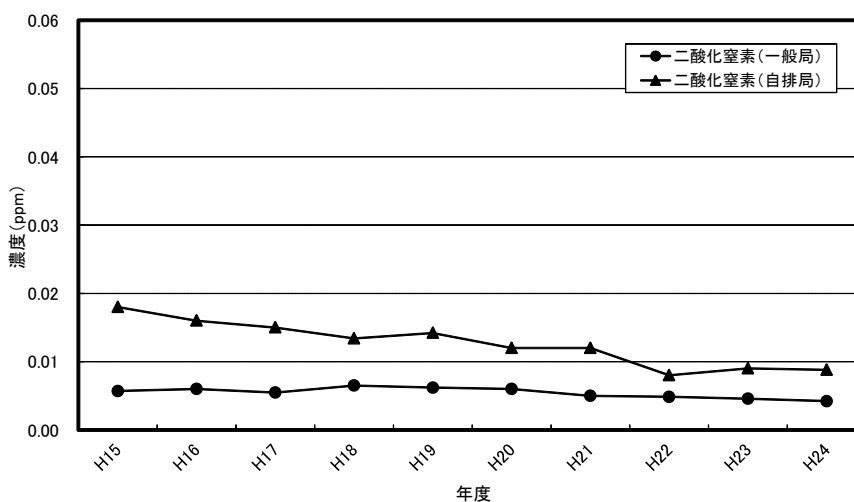


図2 二酸化窒素濃度の年平均値の経年変化

### (3) 光化学オキシダント

光化学オキシダントに係る常時監視測定局数は、一般局が10局、自排局が1局でした。

光化学オキシダント濃度は近年全国的に上昇傾向にあり、平成18年度からは九州各県でも注意報(発令基準:0.12ppm)が発令されています。

本県では、これまで注意報が発令されたことはありませんが、今後とも、オキシダント濃度の推移等について注視していく必要があります。

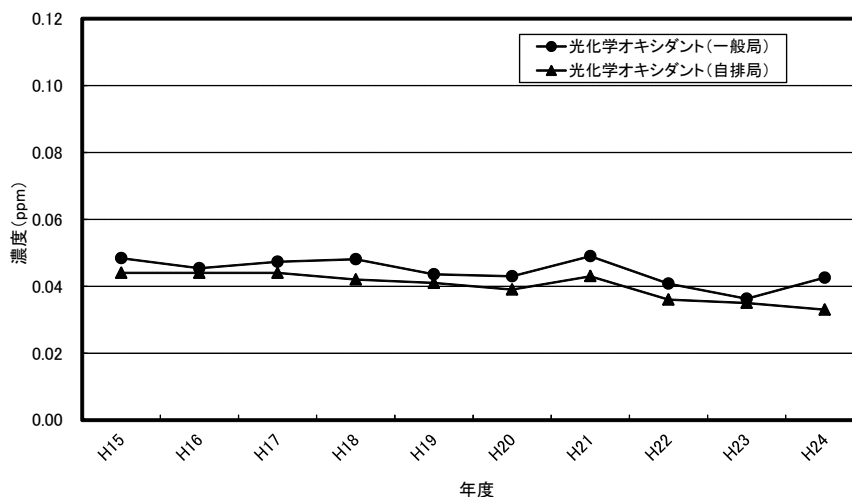


図3 光化学オキシダントの昼間の日最高1時間値の年平均値の経年変化

### (4) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質に係る常時監視測定局数は、一般局が11局、自排局が5局でした。

常時監視測定における年平均値は、一般局が $0.022\text{mg}/\text{m}^3$ 、自排局が $0.028\text{mg}/\text{m}^3$ であり、図4のとおり近年ほぼ横ばい傾向にあります。

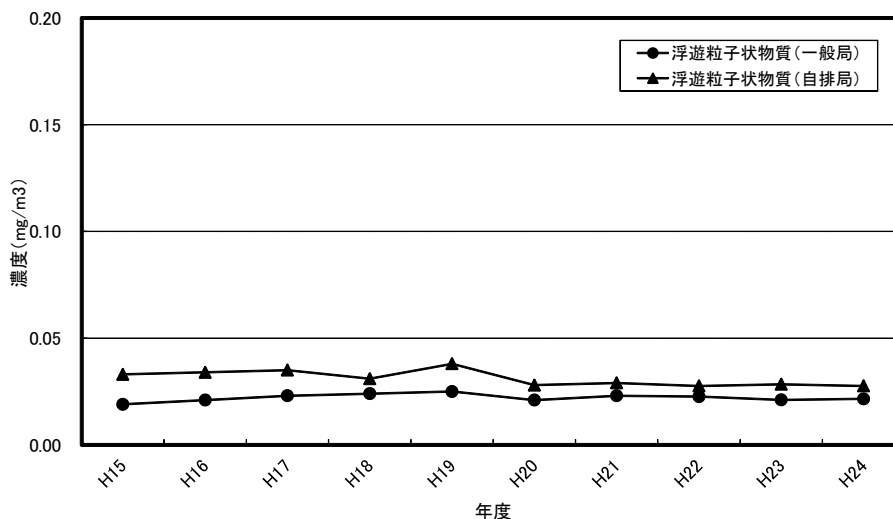


図4 浮遊粒子状物質濃度の年平均値の経年変化

(5) 一酸化炭素

一酸化炭素に係る常時監視測定局数は、自排局が5局でした。

常時監視測定における年平均値は0.4ppmであり、図5のとおり近年緩やかな減少傾向が見られます。

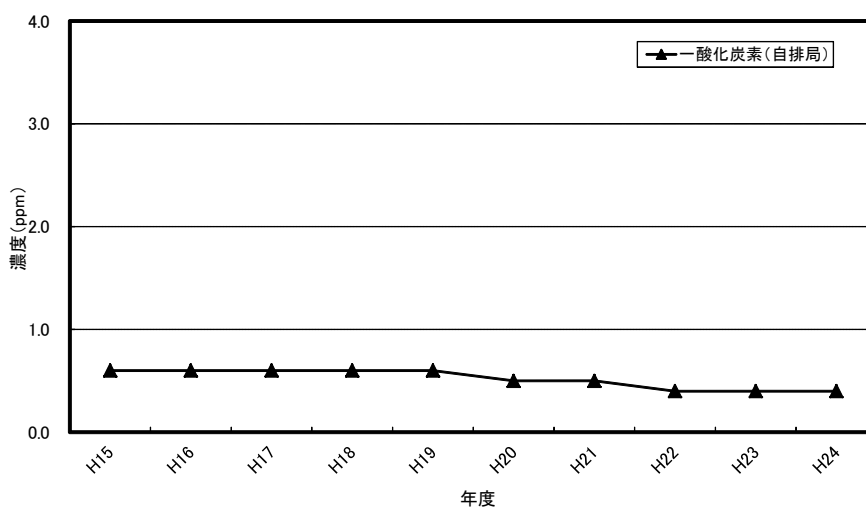


図5 一酸化炭素濃度の年平均値の経年変化

(6) 微小粒子状物質(PM2.5)

微小粒子状物質(PM2.5)に係る常時監視測定局数は一般局が2局、自排局が1局であり、常時監視測定における年平均値は18.4 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ でした。

2 有害大気汚染物質モニタリング調査

有害大気に係る調査地点数は、ベンゼンが4地点(宮崎市立図書館、都城高専、都城自排局、北部港湾事務所)、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンが3地点(宮崎市立図書館、都城高専、北部港湾事務所)でした。

それぞれの年平均値は、0.95 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、0.022 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、0.028 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 及び1.2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、図6のとおり近年ほぼ横ばい傾向にあります。

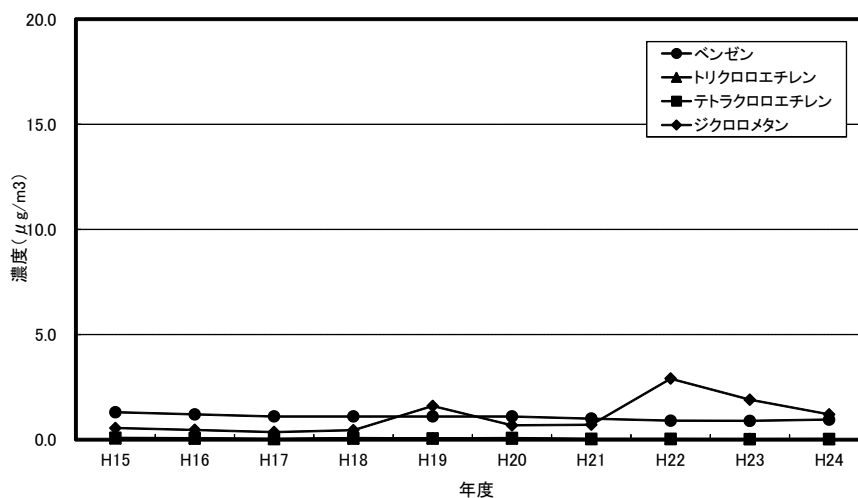


図6 ベンゼン等濃度の年平均値の経年変化